

## 第7回独立行政法人農林漁業信用基金農業保険関係業務運営委員会 議事概要

### 1 開会の日時及び場所

- (1) 日時 平成31年2月25日(月) 10時56分
- (2) 場所 東京都千代田区内神田1-1-12 コープビル5階  
独立行政法人農林漁業信用基金 第2会議室

### 2 出席者

#### (1) 運営委員

出資者：青柳委員、坂本委員、鈴木委員、藤井委員、松田委員

学識経験者：秋野委員、川上委員、深山委員、水上委員

(出資者・学識経験者別 五十音順)

#### (2) 信用基金

今井理事長、石井副理事長、出倉総括理事、森島理事

#### (3) オブザーバー(主務省)

小林農林水産省経営局保険監理官

### 3 提出議案

- (1) 平成31年度年度計画(案)について(議決事項)
- (2) その他

### 4 議事経過の概要及びその結果

信用基金から上記3(1)の議案について説明がなされた後、審議が行われ、原案どおり承認された。

運営委員からの主な質問等は、以下のとおり。カッコ内は、これに対する信用基金の説明。

#### 【質問等】

#### (1) 平成31年度年度計画(案)について

- 「共済団体等に対する貸付業務の適正な実施」において、「大災害時等の緊急的な対応を除き、民間金融機関からの融資を受けるよう促す」とあるが、現実的な計画として理解して良いのか。

(これは、主務省が指示した中期目標において求められている事項。共済団体等に資金需要が発生した際に、まずは民間金融機関から融資を受けることを検討した上で、信用基金の貸付条件(貸付金利、担保の有無)が民間金融機関の貸付条件を上回っている場合には、信用基金が融資を行うとの運用を行っている。現に、民間金融機関から融資を受けている共済団体等もある。)

- 平成31年度の予算において、事業収入(貸付金回収収入及び貸付金利息収入等)及び借入金が、平成30年度予算と比較して増加している要因は何か。

(平成31年度の予算において、農業経営収入保険事業の資金需要に対する貸付金額について、万全の準備をしておく必要があることから、予算上、最大額を見込んだもの。)

- 資金計画において、支出の部の「翌年度への繰越金」から収入の部の「前年度か

らの繰越金」を差し引くと、約16億円の減少となっている。「翌年度への繰越金」が「前年度からの繰越金」より減少している他の勘定と比較しても、この減少幅は大きい、その要因は何か。また、この繰越金の減少により、将来的に何か問題が発生することはあるのか。

( 資金計画において、農業経営収入保険事業の資金需要に対する貸付金額について、予算上、最大額を見込んだため。また、この繰越金の減少により、将来的に何か問題が発生することはない。 )

○ 人事評価のスキームのひとつとして、期首と期末に年2回の面談を実施することとしているが、面談を実施する時期にこだわらず、日々、積極的にコミュニケーションの活性化を図ることにより対応するほうが良いのではないか。

( 日々のコミュニケーションは当然重要。現在、半期ごとに年2回の人事評価を実施。職員に対して、期首の面談において、設定した業務目標の共有を図るとともに、期末の面談において、業務目標に対する達成状況等を伝えている。このことが職員のモチベーションにも繋がると考える。 )

○ 人材育成のために研修制度を体系的に見直すこととしているが、外部の研修を活用することも考えているのか。

( 若手職員には、信用基金の主要業務を体系的に学ばせることとしており、基本的には信用基金内部での研修となる。中堅の課長補佐クラスや管理職には、外部の研修にも参加させることを考えている。 )

○ 情報セキュリティ対策として、「サイバー攻撃等の脅威への対処に万全を期する」とあるが、サイバー攻撃による脅威が、過去に実態としてあったのか。

( これまでサイバー攻撃のような事象は発生していないが、独立行政法人として、国が定めた情報セキュリティ対策のガイドラインに基づき、しっかりと対策を講じていく。 )

## (2) その他

○ 畜産農家は、突発的に発生する法定伝染病について、経営再建への対応に苦労している。畜産経営の再建には時間を要することから、運転資金の借入れが必要となるが、経営再建までのシミュレーションを考えてもらえるような場があるといい。

( 直接的には信用基金の農業保険関係業務の対象にはならないが、経営にとっては差し迫った重要な問題。次回以降の本委員会において、農業保険関係業務だけでなく、もう少し幅広く、どのような議論の持ち方ができるかについて検討してみたい。 )

5 閉会の日時 平成31年2月25日(月) 11時50分

以上